

## 関係・協力会社訪問時の主な意見（抜粋）

### 1. 安全文化関係

#### （1）コミュニケーションについて

- ・ 関係・協力会社が一体となって取り組むためには、電力とのコミュニケーションや報連相が重要であるが、この面は比較的良好であり、伝統的なものを感じる。
- ・ 関係・協力会社が一体となって取り組むためには、コミュニケーションが重要であるが、この面は比較的良好と感じる。一体感が無くては原子力発電所のような巨大プラントは運転できない。
- ・ 協力会社の現場事務所の所長は島根原子力発電所での勤務が長い方が多く、この面がコミュニケーションの良さにつながっているのかもしれない。
- ・ 他電力に比べ中国電力の社員は現場に出ていると聞くと聞くと、この状態をキープしていかなければならない。

#### （2）関係・協力会社内の安全文化等への取り組み

- ・ 「技術の安全」と「安心」とは異なるものであることを認識し、当社（関係・協力会社）も安全文化が重要であると認識する必要がある。
- ・ 安全文化は非常に難しい。請負者としては、工事仕様書を守ることは当然で、その上で人の安全・設備の安全をしっかりと行うことが請負者の責務。
- ・ 安全文化は国の制度として導入された経緯がある。国と電力、電力と請負者、管理者と担当者などの間にギャップがあるように思うので、これを契機に改善していかななくてはならない。
- ・ 再発防止対策や安全文化醸成の活動状況については、機会あるごとに社内に周知徹底を図っている。
- ・ 当社（関係・協力会社）では、作業工程の見える化に取り組んでおり、実際の写真を見ながら作業ミーティングを行いミスの低減を図る活動を行なっている。
- ・ 当社（関係・協力会社）では、1号機定期検査を信頼回復定期検査と位置づけ、管理者朝礼、教育の充実、中国電力と一体となった安全施策など、様々な取り組みを行っている。
- ・ 作業員は全国から集まってきているため、様々な工夫をしながら安全に取り組んでもらえるよう努めている。安全は繰り返しが重要である。
- ・ 中国電力と同じ思いを協力会社へ発信するよう努めている。
- ・ 今回の件だけからではないが、正しく、正しくとの意識が浸透し、隠すとのイメージはなくなり、コンプライアンスが徹底してきている。

- ・ ミスが全くない社会はないし、島根は中国地方唯一の原子力発電所であり注目度が高いという意味からも、社外への伝え方、広報の工夫が大切。

## 2. 当社と関係・協力会社間の連携・一体感

- ・ 駐在社員はほとんどが地元の人である。原子力発電所で何かあった場合、家に帰ってマスコミで知るようでは困る。情報を聞いて家に帰るのとは家族、さらには近所、地元への対応が大きく変わってくる。従来からこの件については中国電力にお願いしており、最近は大分改善されてきたので、この状況の継続と更なる迅速化に努めてもらいたい。
- ・ 最近はプレス資料等の情報も早く伝わるようになってきており、活用している。
- ・ 地元全戸訪問のような地元に関わる情報も発信してもらいたい。
- ・ 今まで経験してきた電力他社の状況と比較しても中国電力の対応に大きな違いは感じられない。
- ・ 情報伝達手段が全て紙になっている。構内LANなどを整備するとともに、システムの統合化も必要。
- ・ 電力の人が忙しく現場に出にくい状況にあるので、請負者としては現場をよく見て、その結果を点検速報として報告することが重要であると考えている。
- ・ 月1回の全体朝礼には発電所長や副所長に参加してもらっているが、電力と関係・協力会社一体となって取り組む意味ではよいことだと考えている。
- ・ 業務の連携について問題は感じないが、中国電力社員が行っている詳しい仕事の内容がわからないので、出せる情報は共有化していただきたい。